

2023年度 第2回中国フットサル部会普及研修会 報告

鳥取県フットサル部長
中村圭吾

1. 日時 2023年10月29日(日) 9:00~13:30
2. 場所 あやめ池スポーツセンター(鳥取県)
3. 対象者 鳥取県フットサル4級・3級審判員[¥]
4. 研修テーマ 「学びを深める」
5. 講師 石原 薫 フットサル1級インストラクター
6. 参加者 リフォルマフットサルクラブ 松下直人 氏
UFC ラソパーニュ 秋山大樹 氏
アロハファイターズ 田中重昭 氏
鳥取大学 FC.GC. 細江脩太 氏
奥山蹴球雑技団 清水貴志 氏
エルハーブ 尾崎智宏 氏 田中智大 氏
ファレミア鳥取/コエーロ 岩見 誠 氏
トゥリバーノ FC 小林泉紀 氏

参加者のコメント

中村圭吾鳥取県 (FB 部長)

中国地域から講師を招いての研修会は鳥取県では初の試みであり、県リーグの帯同審判員を中心に9名に参加いただきました。

研修会では、午前中行われたフットサル選手権鳥取県予選の試合をもとに、石原氏より気になった事象を挙げていただき参加者で議論していきました。レフリングに関して議論する経験が少ない中、選手や役員立場としての意見交換がなされました。後半では、懲戒罰を中心とした映像テストを行い、懲戒罰に対する考え方を学ぶことができました。

研修会を開催するにあたり、試合直後の選手と審判員と一緒にディスカッションすることに不安がありました。今回は、大きな事象もなくコントロールできていた試合だったため、講習会でもそれぞれの立場での意見交換がスムーズにできました。

石原インストラクター並びに中国 FB 部の皆様、このような研修会を開催していただきありがとうございました。

松下直人（主審）

実際の自分のレフリングを映像で見ることでジャッジについて他者の意見が聞けて勉強になりました。今後は、笛を吹いた後、どうなるかも予測しながらレフリングを行っていきたいです。

細江脩太（TK）

今回タイムキーパーを初めて行い審判の重要性を感じました。選手と審判のベクトルが同じ方向を向いていないと良い試合にはならないことが分かりました。細かい判定には難しい部分があり、自分が選手をしていると言いたくなることもあります。審判は選手の気持ちも考えながらコントロールしていくことが大事だと思いました。

田中智大（選手）

本日は、石原薫フットサル 1 級インストラクターによる審判研修会に参加させていただきました。研修会では、私が選手として出場していた試合の映像を用いて映像分析とディスカッションを行う場面がありました。自分のプレーが関与していた・していなかったに関わらず、それらのシーンのプレーをファウルとするのか、しないのかの判断基準(考慮点)を、一部デモンストレーションを用いてご教授いただきました。フットサル(およびサッカー)では、ファウルは多くの場合、競技者同士の接触によって引き起こされますが、その際に選手の「意図」に注意・注視することが大事(必要)だと学びました。試合で審判を務める際に、競技規則に明記されているファウルの種類(何のファウルなのか)を特定(判断)し、判定を下す時の考慮点として様々なことがあると伺いました。ささいな接触ではあっても選手はボールを見ることなく相手競技者を小突いた(チャージした)のか、残っていた足でアフターファウルとなるのかどうかについては残り足の位置や高さはどうだったのか、また、相手競技者がボールにプレーする前に相手競技者にぶつかりにいったのか、そして、倒された相手競技者はゴールの方向に向かっていたのか、または倒された選手がドリブルを始めた時のスピード感はどうだったのか、といった「プロセス」に目を向けるということの重要性を改めて認識できました。この度の石原氏による講習会で得た学びを、今後の昇級試験に反映できるように努めてまいります。石原氏、ならびに本日の強化審判講習会を開催していただいた鳥取県サッカー協会フットサル・ビーチサッカー部に大変感謝しております。これからも、フットサル(およびサッカー)のレフェリーとしての技量アップに精進していきたいと思いません。ありがとうございました。

講師コメント：石原 薫

この度、ご依頼を受けて普及研修会に参加してきました。全日本フットサル選手権鳥取県予選会を中心に映像分析、映像を使用するのクイズを行いました。クイズでの高得点の方にはプレゼントを授与させていただきました。フットサル競技、レフェリング、競技規則をともに学び、そして今までよりさらに深めようと皆さんとても熱心に取り組んでおられました。鳥取県は、ビーチサッカーも参加なところなので、フットサル審判員もですが、ビーチサッカー審判員の仲間が増えることを願っています。



